なかよし・けんこう・どりょく

天見小校長室だより　12月号

令和5年11月30日
天 見 小 学 校

人の温かみが感じられる学校　みんなで笑顔と元気を作り出せる学校

私は、毎朝、天見の遊歩道を駅まで子どもたちを迎えに行く時間がとても好きです。凛とした朝の空気に触れ、静けさと同時に澄んだマイナスイオンをたっぷり浴びているのを感じるからです。先日、山にふと目をやると、天見の山がいろんな色でお化粧しているのに気づきました。本格的に、紅葉が始まりました。銀杏の黄色く輝く葉の色や、モミジの真っ赤に染まる色。メタセコイヤの渋い赤色、南天の点々とした鮮やかな赤色。駅から山を見ると、緑一色だったのが、たくさんの色に変化していて、とてもきれいでした。一年を通して様々に変わる山の色に自然の息吹を感じています。

天小まつり　　子どもたちの自主性に感動

天見小学校の教育の方針の一つに、「自主性を重んじる」ことを大切にしている先生方の思いがあります。そしてその精神をしっかりと感じ、自主的に動ける子どもたちに感心させられます。

先日の天小まつりでも、テーマとして、「来てくださった人たちに天見小の良さをしっかり感じてもらえるようなお店作りをしよう。」ということで、それぞれのたてわり班で内容を一生懸命考えていました。休み時間を返上して天小まつりの準備を頑張っていた班もたくさんあります。たてわり班では、時間の制約や年齢の違いなど動きにも様々な制限がある中、誰かが中心となって動かしていかねばならなかったり、自分たちで動かなければ完成しなかったりします。自分たちにできる仕事を考え活動している様子を見ると、子どもたちが年齢に応じて成長しているのを感じました。天小まつりの準備時間の中にも、学年に応じていろんな仕事を任され、それぞれに張り切って活動している様子を伺い、笑みがこぼれてしまいました。

天見に生きる生き物や植物で神経衰弱を作ってみたり、天見の自然物を使って楽器を作ってみたり、天見の良さを劇で紹介してみたり、双六を楽しみながらのクイズを作ってみたり、ごみキャッチャーを楽しんでみたり・・・様々な工夫があってとても面白い店に仕上がっていました。

当日は、たくさんの方においでいただきありがとうございました。お店の PR にも工夫を感じられ、どのお店も行ってみたくなったことでしょう。全校 64 名で歌うウエルカムソングは体育館いっぱいに響き渡り、感動もしました。

外部の方にもたくさんお越しいただき、子どもたちと触れ合いながら楽しんでいってくださった様子、とてもありがたく思います。他にも地域の方々には缶バッチや竹を切ってけん玉つくり、PTA の方にはヨーヨー釣りをブースとして出していただき、子どもたちの楽しさも倍増したものと思います。

また、花いっぱい運動では、地域の方が子どもたちとたくさんの花を植えてくださいました。天見小学校の運動場へ向かう通路には、いつも花がいっぱいで、子どもたちの心を癒してくれています。いろんな支えがあっての学校教育。それにこたえてくれる子どもたちの素直な笑顔。ここは、まさに理想の学校と言えるかもしれません。

いつもご支援・ご協力、本当にありがとうございます。

12 月 4 日～12 月 10 日は、人権週間

12 月 4 日～10 日は人権週間です。これだけ「人権を大切に」と、叫ばれている世の中でも、『いじめや虐待、性被害等のこどもの人権問題、インターネット上の人権侵害、障害のある人や外国人、性的マイノリティ等に対する偏見や差別、部落差別（同和問題）、ハンセン病問題といった多様な人権問題が依然として存在しています。

これらの問題の解決には、私たち一人一人が様々な人権問題を、自分以外の「誰か」のことではなく、自分のこととして捉え、互いの人権を尊重し合うことの大切さについて、認識を深めることが不可欠です。』（法務省ホームページより）

なぜ、人は人を傷つけるのでしょう。キーワードは「自分のこととして」考える力ではないかと思います。

① 傷つけているとは知らず、気づかず人を傷つけていることがあります。
② 言葉が足りなくて、思いが伝わらずに誤解を招いている場合があります。
③ むしゃくしゃしてそのイライラを我慢できずにどこかにぶつけたくて、人を傷つけてしまうこともあります。
④ 自分が嫌いな人がいて、その人を傷つけてやろうと思って攻撃を仕掛けることがあります。
⑤ 見て見ぬふりをしてしまうことがあります。　　など、理由は様々あるでしょう。

最近、子どもたちのけんかの仲裁に入った時に、「④が理由です。」と言う子は、あまりいません。反対に、「そんなつもりはなかった。」「傷つけているとは思わなかった。」そういう話はよく聞きます。では、なぜ知らず知らずに傷つけてしまうことが多いのでしょうか。理由としては①②になってくるのではないかと思います。

②の言葉が足らなくて誤解を招くことは大人でもよくあります。ましてや子どもなのだから言葉を巧みに使うことには限界があります。だからこそ、言葉の使い手である人間として生まれてきた私たちは、できるだけ正確に相手に気持ちを伝えられるようになれば、どんなにいいかと思います。誤解だとわかった時には子ども同士だと、大人の助けを借りてもしっかり伝え直せば、大概の場合、誤解が解けて仲直りできる場合がほとんどです。

問題は①の「そんなつもりはなかった」「傷つくとは思わなかった」時です。子どもたちに嘘はなく、本当にそうだったのでしょう。ただこういった場合、この言葉を発したら、この行動をしたら、相手が傷つくかどうかがわからない場合が多いように思います。原因の一つ目としては、経験不足。なので、これからいろんな経験を積むことで、もっと相手の気持ちがわかるようになってくるでしょう。関係を修復しやすい子ども時代だからこそ、子ども同士のケンカも含めて子どものころにはいろんな経験をさせたいですし、プラスの経験もマイナスの経験も、全て大人になった時に相手の気持ちを考えられるようになってくれればと願います。

原因の二つ目としては、想像力不足。想像の力を育てるには、物語など本をたくさん読んであげることでも、主人公の気持ちになって考えられる力がつきます。学校では、読み聞かせなどでお話を聞いたり、国語の時間に物語を読んで、一緒に物語の世界に入り楽しんだり、主人公の気持ちを考えたり、主人公の生き方について考えることで間接的な経験ができます。そして、それは、子どもたちに想像力を育み、自分以外の人の気持ちが理解できるいい機会となるのではないかと思います。想像力を育むために、たくさんの本に触れ疑似体験ができる機会が多ければ多いほど相手の気持ちになって考える機会が増えます。ご家庭でも寝る前の数分でいいですので、読み聞かせをしていただけたらと思います。主人公の気持ちになって、笑ったり、怒ったり、泣いたり楽しんだり、本の世界に入り込むと、親子のとてもいい時間になるのではないかと思います。

⑤については、この行為が皆の中からなくなると、約 80%のいじめがなくなると言われています。「見て見ぬふり」は「一緒にやっていることと同じこと」。せめて、「それはしてはいけないよ。」と言えるよう子どもたちには 12 月 6 日の全校朝礼で一緒に考えようと思います。